

函館工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	数学演習A	
科目基礎情報							
科目番号		0094		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		社会基盤工学科		対象学年		4	
開設期		前期		週時間数		前期:2	
教科書/教材		プリント教材を使用（ただし、指示により1～3年で使用した数学教科書）					
担当教員		新田 一夫					
到達目標							
1. 関数のグラフや極大極小、最大最小に関連した標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける 2. 方程式や不等式に関連した標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける 3. 順列や組合せなどの場合の数に関連した標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		関数のグラフや極大極小、最大最小に関連した標準的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける		関数のグラフや極大極小、最大最小に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題が解ける		関数のグラフや極大極小、最大最小に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題が解けない	
評価項目2		方程式や不等式に関連した標準的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける		方程式や不等式に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける		方程式や不等式に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解けない	
評価項目3		順列や組合せなどの場合の数に関連した標準的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける		順列や組合せなどの場合の数に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解ける		順列や組合せなどの場合の数に関連した基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等が解けない	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 B							
教育方法等							
概要		3年までに学んだ数学の範囲からいくつかの要点を絞り、それまでの学習順によらずにそれらの概念や解法をあらためて概観することによって、理解を一層深めることを目指す。具体的には、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができることを到達目標とする。					
授業の進め方・方法		学習内容の項目毎に配布するプリント教材をもとに授業を行い、各項目毎に指定される問題が課題として与えられる。課題は、指定されたすべての問題をレポートとして提出することが求められる。したがって、毎授業で課された課題を翌授業までには終える事前学習が求められ、積み残しをしないことが肝要である。 小テストは短時間のもので、原則として各学習項目毎に行う。 本講義で扱う内容の多くは数学の関連項目のコアカリキュラムを含んでいるが、到達目標としてはやや難易度の高いものを含めて設定している。 教育到達目標評価：定期試験50%（B）、小テスト20%（B）、レポート30%（B）					
注意点		数学を苦手とする者のための補習授業ではないことに注意。 本科目は学修単位（1単位）の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修（予習・復習、課題・テスト等のための学修）を併せて45時間である。自学自習の成果は課題及び小テストによって評価する。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週	ガイダンス (0.5h) 関数とグラフ (1.5h)		・関数とグラフに関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		10週	関数とグラフ (0.5h) 関数の極値と最大・最小 (1.5h)		・関数の極値や最大・最小に関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		11週	いろいろな方程式と不等式 (2h)		・方程式や不等式の解法に関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		12週	整数値問題 (2h)		・整数値問題に関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		13週	場合の数 (2h)		・順列や組合せ等の場合の数に関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		14週	極限値と収束・発散 (2h)		・数列の極限値や級数の収束・発散に関する基本事項を再確認し、標準的で基本的な技術士第1次試験や公務員試験問題等を解くことができる		
		15週	前期期末試験				
		16週	答案返却・解答解説				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	小テスト	レポート			その他	合計
総合評価割合	50	20	30	0	0	0	100
基礎的能力	50	20	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0